

農業技術 プリズム

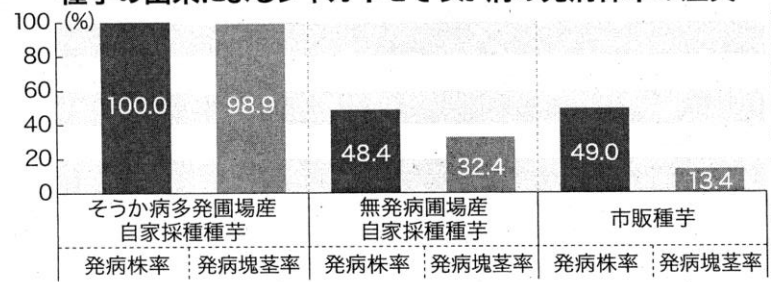
ジャガイモそうか病は芋の表面にかさぶた状の病斑を作り、発生すると著しく商品価値を損ない、完全に防除することが困難な重要病害です。そうか病の伝染経路として、病原菌がいる土壌での栽培で発生する「土壌伝染」と、病原菌が付着している種芋の栽培で発生する「種芋伝染」の二つがあります。種芋伝染を抑制する対策として種芋消毒が推奨されます。今回、種芋伝染によるそうか病の発生リスクを調査しました。

そうか病の多発圃場（ほじょう）から採種した種芋、無発病圃場から採種した種芋、市販の種芋の3種類で、いずれも病斑のない物を用い、土壌消毒を行った圃場で、種芋消毒はせずに栽培しました。結果、無発病圃場産の種芋や市販の種芋は、多発圃場産ほどではないものの、そうか病が発生しました。従って、病斑がなく健全に見える種芋でも、種芋伝染によるそうか病の発生リスクが非常に高いことが分かりました。

ジャガイモそうか病 高リスクな種芋伝染 無病斑でも消毒必要

れも病斑のない物を用い、土壌消毒を行った圃場で、種芋消毒はせずに栽培しました。結果、無発病圃場産の種芋や市販の種芋は、多発圃場産ほどではないものの、そうか病が発生しました。従って、病斑がなく健全に見える種芋でも、種芋伝染によるそうか病の発生リスクが非常に高いことが分かりました。

種芋の由来によるジャガイモそうか病の発病株率の差異



※土壌消毒はクロルピクリン剤を使用

そうか病のまん延防止のためにも、必ず種芋消毒を行うことが重要です。
（県農林技術開発センター 畑作営農研究部門中山間営農研究室主任研究員 渡邊巨）